

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)花園ナーシングホーム	階数	地上4F	
建設地	熊本市西区花園1丁目340番6	構造	S造	
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	190 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年1月29日	
敷地面積	2,024 m ²	作成者	大和リース(株)	
建築面積	1,114 m ²	確認日	2021年2月1日	
延床面積	4,107 m ²	確認者	大和リース(株)	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

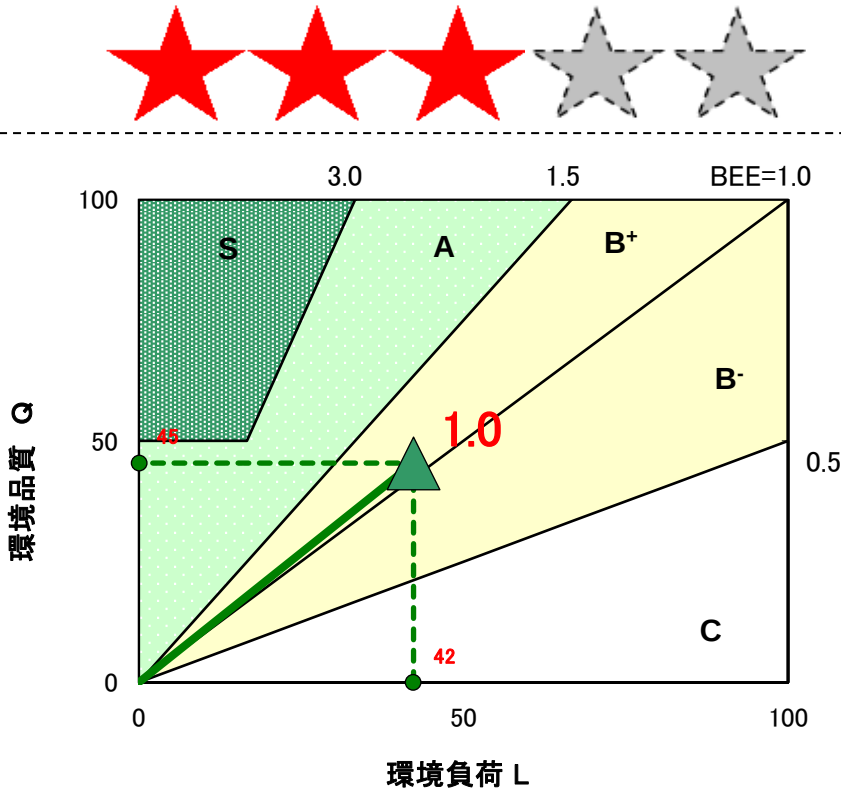
★★★★★

★★★★

★★★

★★

★



BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30% 以下	★★★★★
30% 超60% 以下	★★★★
60% 超80% 以下	★★★
80% 超100% 以下	★★
100% 超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

★★★☆☆

排出率

87%

判定値 (排出率)	ランク表示
30% 以下	★★★★★
30% 超60% 以下	★★★★
60% 超80% 以下	★★★
80% 超100% 以下	★★
100% 超	★

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

76

重点事項	評価点	熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	77.2	<table><thead><tr><th>判定値 (評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上	   	80点以上100点未満	   	60点以上80点未満	  	40点以上60点未満	 	40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上	   													
80点以上100点未満	   													
60点以上80点未満	  													
40点以上60点未満	 													
40点未満														

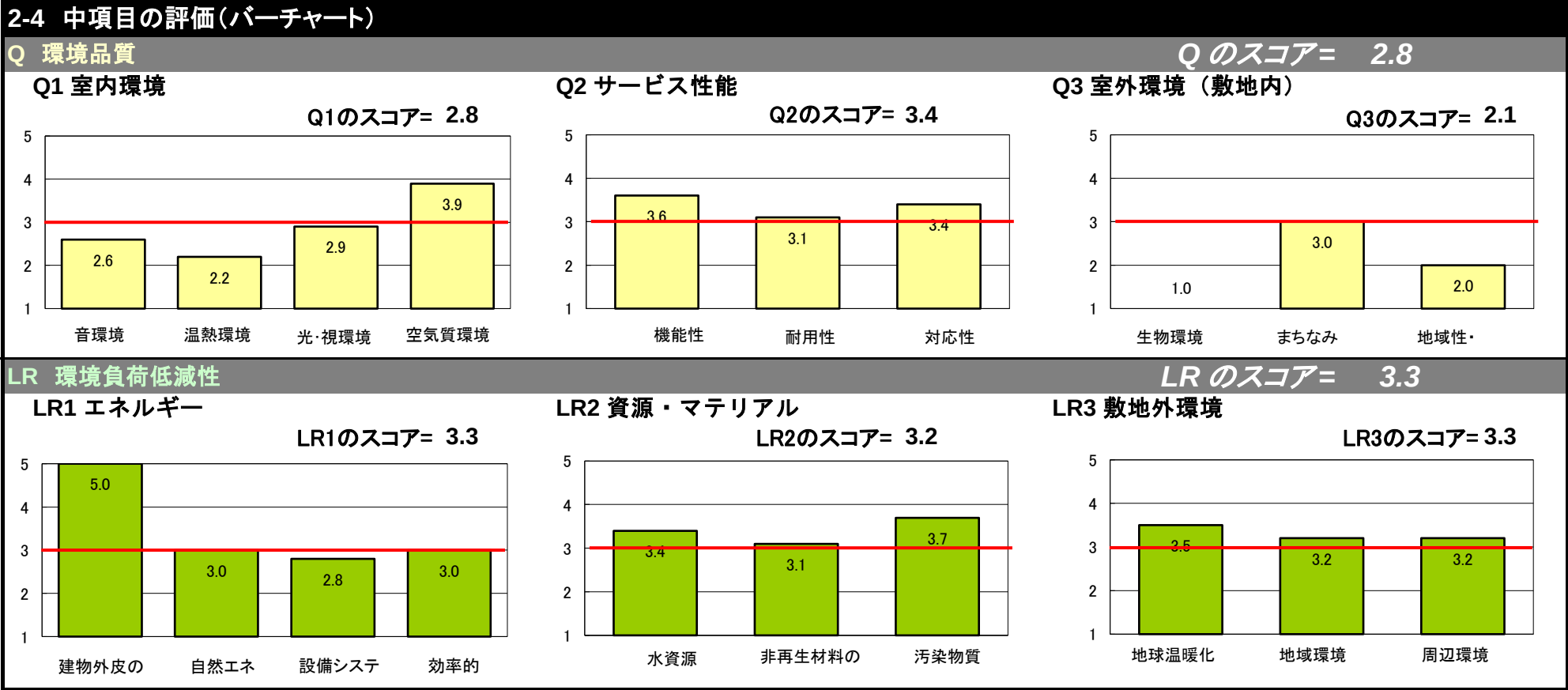
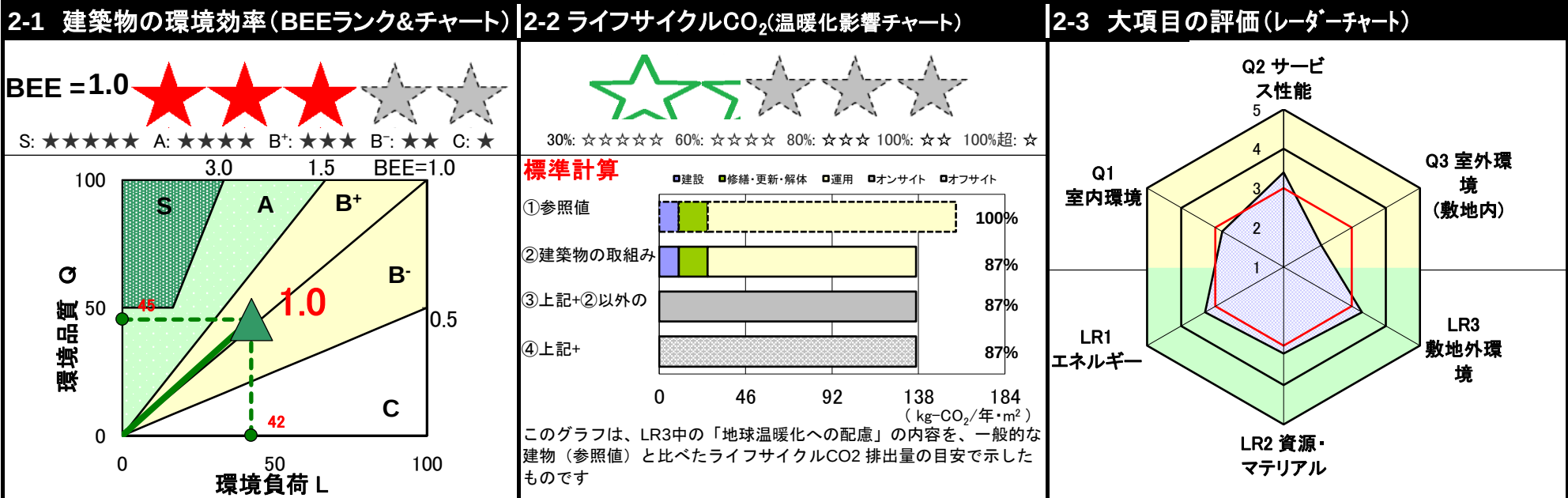
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)花園ナーシングホーム	階数	地上4F	
建設地	熊本市西区花園1丁目340番6	構造	S造	
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	190 人	
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年1月29日	
敷地面積	2,024 m ²	作成者	大和リース(株)	
建築面積	1,114 m ²	確認日	2021年2月1日	
延床面積	4,107 m ²	確認者	大和リース(株)	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)花園ナーシングホーム

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境					0.40	-	-	2.8	
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00	2.6	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.3	0.35	2.2	1.00	2.2	
2.1 室温制御				2.5	0.50	2.2	0.50		
1 室温				1.0	0.38	1.0	0.57		
2 外皮性能		外壁 U=0.56(W/m ² K) 屋根 U=0.38(W/m ² K) 窓 SC=0.697(W/m ² K)/0.88=0.79 U=6.23(W/m ² K)		4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.2	0.25	3.3	1.00	2.9	
3.1 昼光利用				2.4	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		昼光率(食堂機能訓練室)1.31、昼光率(居室25)1.78		2.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				4.2	0.25	3.7	1.00	3.9	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				4.0	0.30	3.3	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		0.09(1/15以上)		-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		各種排気口と異なる方位で6m以上の離れ		5.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				2.4	0.40	4.4	1.00	3.6	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		11.43m ² /床		-	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	3.5	0.40		
1 広さ感・景観		居室天井高2.6m		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		

2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
	2.1 耐震・免震・制震・制振		B以上を使用(給水・給湯・雑排水)、Eは不使用	3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		-	-	-	-	
	2	給排水・衛生設備		4.0	0.25	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.25	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.25	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.25	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	3.5	1.00	3.4
	3.1 空間のゆとり		1階階高4.0m、2階階高3.8m 壁長さ比(1階):0.22、壁長さ比(2階居室25):0.22	4.6	0.30	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり		5.0	0.60	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱材の設置	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	-	2.8
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓・節水型便器	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS下地)	4.0	0.20	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材なし(グラスウール)	5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省エネ設備の導入	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮		3.2	0.33	-	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止	ガス給湯器 NOX60ppm以下	4.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	
2 污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン項目の過半を満足	5.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周辺的环境に配慮した配置とし、敷地周辺には緑地を設け、圧迫感を与えないよう配慮している。
周囲の環境に調和するよう建物の外観・色調に配慮し、周辺住民に親しまれるような施設を目指している

Q1 室内環境

- ・ 外部に接する壁、屋根は断熱材を設置し、断熱性能の向上に努めた。
- ・ 規制対象品は全てF☆☆☆☆を使用。
- ・ 外気取入口と排気口の位置関係について配慮し、室内の空気質環境向上に努めた。

Q2 サービス性能

- ・ 設備配管などは維持管理に配慮し、耐候性の高い資材を採用した。
- ・ 居室天井高を2.6mとし、圧迫感を感じさせない空間とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 敷地内にできる限り植栽を設け、温熱環境の向上に努めた。

LR1 エネルギー

- ・ 設備機器は省エネ性の高い機器を採用し、外部に面する部分は断熱材を設置し外皮の熱負荷抑制に努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 躯体と仕上材を容易に分別できるようにすることで、部材の再利用性に努めた。
- ・ 自動水栓、節水型の便器を採用し水資源の保護に努めた。

LR3 敷地外環境

- ・ 低汚染型の燃焼器具を採用し、汚染物質の抑制に努めた。
- ・ 屋外照明は、光害の影響がでないよう周辺環境に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)花園ナーシングホーム

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				77.2	0.40	30.88
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81	0.20	16.20
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数